特　集

平成30年7月豪雨（西日本豪雨）災害

～　被災地支援活動の取り組み　～

平成30年６月末に発生した台風７号の影響で、日本列島上に停滞していた梅雨前線が活発化し、７月５日から６日にかけて、広島県や岡山県など西日本地域を中心に記録的な大雨が降り続きました。この豪雨は、各地に河川の氾濫や土砂災害などの甚大な被害をもたらし、２００人を超える尊い命が奪われてしまいました。

静岡県ボランティア協会では、７月９日、現地の状況把握や情報収集のために職員を派遣すると同時に、備蓄していたタオルをはじめ、ご提供いただいた飲料水を広島県呉市役所にお届けすることから、支援活動を開始しました。

今号では、平成30年７月豪雨（西日本豪雨）における協会のこれまでの支援活動の取り組みについて、皆さまにご報告いたします。

＊　＊　＊　＊

緊急支援物資

発災直後の７月９日、備蓄していたタオル４，７８９枚と、フードバンクふじのくにや企業団体からご提供いただいた飲料水89箱（１，０３２本）を、協会が所有するリフト付き大型バス「ふじのくに愛輪２号」で、広島県呉市役所にお届けしました。また12日にも、備蓄していたタオルを追加で５，４１３枚と、静岡県社会福祉協議会からご提供いただいた飲料水40箱（２４０本）とアルファ米等の非常食（３，１０４食）のほか、企業からご提供いただいた大型扇風機（３台）を「ふじのくに愛輪２号」で、広島県呉市社会福祉協議会にお届けしました。

７月16日、くれ災害ボランティアセンターから、土のう袋が不足している旨の相談を受けました。当協会の被災地支援活動を応援してくださる企業に声を掛け、６，２００枚の土のう袋を送ることができました。また、東日本大震災の支援を通じて、つながりのある岩手県遠野市からも、協会からの要請に応じて、土のう袋（３，２００枚）と、タオル（３，０００枚）を、呉市役所と呉市社会福祉協議会にご提供いただきました。

ボランティア移送支援

７月９日にタオルと飲料水を積んで、静岡を出発した協会所有のリフト付き大型バス「ふじのくに愛輪２号（36人乗り）」は、翌10日早朝に呉市役所に到着しました。

呉市役所の１階には、くれ災害ボランティアセンターが設置されています。休校になった市内の高校に通う学生が多数ボランティアに来ていたため、緊急支援物資をお届けし終えた「ふじのくに愛輪２号」は、ボランティアセンターから活動に向かう学生30名を活動先まで移送するお手伝いをしました。

夏の暑いこの時期は、熱中症などの体調不良を起こしやすいこともあり、例年、福祉施設や障害者団体による「ふじのくに愛輪２号」の利用が少なくなっています。そこで２回目の支援物資をお届けに呉市に到着

特　集

した13日から9月9日までの約2ヶ月間、「ふじのくに愛輪2号」をくれ災害ボランティアセンターでボランティアの移送に役立てていただきました。バスの運行は、日頃から運転ボランティアの応援をいただいて実施していますが、現地での運行にも、静岡からのべ7名の運転ボランティアに応援いただき、現地の方々と協力して、ボランティアの送迎に携わっていただきました。

足湯・お茶サロン活動

発災直後に現地入りした協会職員は、現状把握や情報収集を行う中で、記録的な猛暑が続く中での避難所生活で、被災された方々の心身の疲労と健康状態の悪化が心配されるとの声を聞きました。これまでの被災地支援活動の経験から、被災された方々に、ほんのわずかでも気持ちをリフレッシュできる時間を持っていただきたいと考え、呉市社会福祉協議会と地元の民生委員の皆さんと連携しながら天応地区と安浦地区で、足湯・お茶サロン活動を実施することを決めました。

足湯・お茶サロン活動の実施にあたっては、災害復興支援ボランティアチーム「しずおか茶の国会議」に協力いただきながら、8月3日から9月30日までの期間、3日間の日程で計9回のべ67名のボランティアを送り出しました。

◇第1次隊（8月3日～5日）

静岡茶と静岡らしいお菓子を持参して、天応まちづくりセンターと天応小学校で実施しました。30度を超える暑さの中でも、足湯をするとリラックスできると喜んでいただきました。

◇第2次隊（8月10日～12日）

今回から、天応まちづくりセンターと安浦まちづくりセンターの2ヶ所に分かれての活動となります。地元の民生委員と呉工業高等専門学校の学生らも加わって実施しました。避難所で生活されている方の中には家の片付けに、ボランティアの応援がもらえることを知らない方がいたりしました。

◇第3次隊（8月17日～19日）

足湯が気持ちよかったのでと、また来てくれた方がいました。茶畑の写真をきっかけにお茶サロンは大いに賑わいました。盛り上がり過ぎて声が大きくなってしまうことがありましたが、「皆さんが笑顔になってありがたい。来週もお願いします。」と言っていただけました。この場が、住民の皆さんの語らいの場になってきているようです。

◇第4次隊（8月24日～26日）

子どもたちも遊びに来てくれたり毎週の訪問を楽しみにして下さっているのが感じられます。また天応まちづくりセンターでは、アーティストによる応援ライブが開かれ、避難所の皆さんが楽しんでいる姿を見ることができました。

◇第5次隊（8月31日～9月2日）

避難勧告がでるほどの悪天候で、ボランティアセンターはお休みとなり、専門職ボランティアとして活動中の看護師も合流しての活動となりました。仮設住宅が完成してこれから入居が始まっていく中で、避難所を早く出なければいけないのでは・・と不安になっている方々の様子が伺えました。

◇第６次隊（９月７日～９日）

天応地区の活動は、新しくできた仮設住宅談話室で実施しました。引越しや買出し等で、お忙しそうでしたが、そんな中でも足湯に足を運んでくださる方がいらっしゃいました。最終日は、朝から避難勧告や一部地域には避難指示が発令されるほどの大雨が降り、活動は中止となりました。

◇第７次隊（９月14日～16日）

天応地区の仮設住宅談話室では、住民の皆さんが広島カープのナイター戦を観戦したり、サロンが開催されていて、『集う場』として活用されていました。ＪＲ呉線も運行を再開し、少しずつ日常が取り戻されてきているようですが、被災された方々の生活再建は、まだまだこれからです。

足湯・お茶サロン活動は、この後第８次隊（９月21日～23日）、第９次隊（９月28日～30日）が活動しました。今後は、第10次隊（10月12日～14日）、第11次隊（11月16日～18日）、第12次隊（12月14日～16日）の日程でボランティアの送り出しをしていきます。

専門職ボランティア派遣

記録的な猛暑は、避難所で不自由な生活を送る方々だけでなく、炎天下で一生懸命に活動するボランティアにとっても、熱中症の危険からどうやって身を守るかが大きな課題になっていました。１年前の九州北部豪雨災害で専門職ボランティアの大切さと必要性を強く感じていた協会は、（福）聖隷福祉事業団（本部：浜松市）の協力をいただき、８月１日から９月２日までの期間、２名体制５日間の日程で、計８回１６名の看護師を派遣していただきました。

くれ災害ボランティアセンターの天応サテライトを拠点に、活動中の熱中症予防やケガをした際の対応についてのオリエンテーションを行ないました。ボランティアを送り出した後は、活動地区を巡回しながら、ボランティアへの見守りや声掛け、水分補給のための飲料水配布やケガの手当と、ボランティアが安心して活動できる環境づくりに取り組みました。

活動中に体調不良を訴えるボランティアは、前日までの休息が不十分だったり、食事をしっかりとっていなかったり、マスクを着用しないまま土砂のかき出し作業をするなど、気を付ければ防ぐことができるものもあります。そういった点の注意喚起をボランティアセンターに提案して、体調管理や感染予防の強化をはかる工夫もしました。

ボランティアの見守りだけでなく、自宅で作業を行っている住民の方々への訪問も行い、お話を伺う中から健康状態を把握したり、健康相談に応じたりしました。交通網の遮断等で通院を諦めてしまう方や、現状に不安を持っている方にとっては心強い存在だったのと声を多数聞くことができました。

＊　＊　＊　＊

呉市天応地区及び安浦地区では、それぞれ40戸の仮設住宅が８月末に完成しました。このほかにも市内の市営住宅や県営住宅などが、みなし仮設住宅として提供され、避難所で不自由な生活を送ってきた方々の、プライバシーが確保できる空間での生活が始まっていきます。しかし、元の生活を取り戻すには時間がかかります。新しい環境での人間関係や、自宅の再建等さまざまな問題を抱えての生活は不安でいっぱいです。静岡県ボランティア協会では、今後も「私たちにできること」を考えながら、被災された皆さまに寄り添った支援活動を続けていきます。

特　集

≈ 足湯・お茶サロン活動を通して、被災された方々から伺った「声」の一部をご紹介します。 ≈

床下浸水だけど臭くて住めない。息子が一緒に住もうと言ってくれたけど、近所の人がいるからこっち(避難所)がいい。

家屋の土砂かきをやっているが、生まれて初めてのことで、腰や足が痛いし、手首もむくむ。（足湯で）手も足もすごく気持ちよかった。

静岡のお茶はまろやかで美味しい。

静岡から来てくれたんですね。静岡の人が多くて嬉しいな。

国鉄(当時)浜松工場で、新幹線の車体を作っていたことがある。

昨日足湯やってもらったらよく眠れたから、今日も来たの。

(前回)気持ちよくて、今回は友達を連れてきた。

自分たちがこんな状態になって初めて、他の災害のところの人たちの大変さが分かりましたよ。
家はタンスも何も１階にあったものは全部流されてしまったけど、柱や壁がしっかりしているので、床下さえきれいになれば又家に帰れる。早く帰りたいよ。

家に水が浸入してきて首の高さらへんになった。つま先立ちしていないと口までつかってしまうくらい。その状態で 4 時間も救助を待っていた。体温が 33 度にまでなって低体温症で、それ以上その状態だと死んでいた。最初避難所にいたときは、死にたい死にたいと思っていた。けど、今はたくさんの人の個性が見れるから楽しいの。本当にいろんな方がいておもしろい。

自宅をリフォームしなくてはいけないと思うが、また大雨で水が入ってきたらと思うと、する気になれない。2ヶ月～2 年、仮設に入ろうかと…。娘が、うちにおいでと言ってくれるが、仕事もしているしどうしようかと迷っている間に、時間が経過してくる。早く決めないとと、焦っています。

心がいっぱい。ありがたいことだなぁ。こーゆーことがなければありがたさも分からんかったからなぁ・・・。これも出会いだな・・・

家の土砂の片付けは終わったよ。自分はまた午後家を見に行ってくるよ。私は何もできない。座ってみているだけだよ。ボランティアありがたい！

前までは目をつむると水が迫ってくるような感じがしていた。最近はなくなってきているが、眠れない日が続いている。家に帰りたい。

☆ご協力いただきありがとうございました☆

今回の平成 30 年 7 月豪雨（西日本豪雨）災害に対し、多くの皆さまからボランティア活動支援金のご寄付をいただきました。
皆さまからお寄せいただいた支援金は、タオルや飲料水を運搬した「ふじのくに愛輪２号」の通行料や燃料費等諸費用、足湯ボランティアや専門職ボランティアの派遣諸費用や活動資機材の購入費用に充てさせていただいています。ありがとうございました。

また緊急支援物資として、飲料水や土のう袋、大型扇風機等をご提供いただきました企業団体の皆さまの迅速なご対応にも感謝申し上げます。